

山 豆

夫
婦
猿
満

祝
参
集
殿
竣
工

ご挨拶

宮 司 宮 西 修 治

紫陽花の濃い紫や淡い青が神苑を彩る六月、山王祭の時期を迎えました。

今年は神幸祭のない、いわゆる陰祭の年ですが、六月七日の「八坂神社例祭」に始まり十七日の「裏千家献茶式」まで十一日間に亘り、様々な祭典や神賑行事が華やかに行われてまいります。本年も大勢のご参拝の方々をお迎えすべく、その準備に余念なきを期しているところです。

さて、当日枝神社は、三年後の令和十年に御鎮座五百五十年という節目の年を迎えますが、その記念事業の一環として令和三年に「下りエスカレーター」を設置しました。

その後の令和四年には老朽化した参集殿の建替に着手、同年十一月二十一日に地鎮祭を、そして本年五月七日に竣工祭を行い、第一期工事の完工を見ました。これ偏に氏子御崇敬の皆様のご理解とご支援の賜物と有難く篤く御礼申し上げます。

新築なった参集殿一階にはブライダルサロンを始め衣裳室・美容室・写真スタジオ・授乳室等が、また二階に設けられた大小の宴会場は祭典後の直会や結婚披露宴、各種宴会に対応可能で、更に地下一階にはレストラン「山王茶寮」を設けました。初宮詣や七五三詣の後の会食など、多くの皆様に喜んでご利用いただける事と存じます。今後は記念事業の第二期工事として、南神門の回廊改修工事を予定しています。皆様には何卒、本事業の趣旨をご理解のうえご賛同賜りたく存じます。

さて、現在の我国の状況は、領土に対する危機や見通しの立たない経済。広く海外に目を向ければ世界各地で頻発する武力衝突や地球環境の変動など、多くの課題と向き合っています。

また、人工知能をはじめとしたテクノロジーの発達により、世界を取り巻く潮流が著しく変化しています。このような時代にあつてこそ、我国固有の文化を見つめ直し、先祖伝来の知恵を活かす事が求められているのではないでしょう。

「伝統」とは決して古びた、時代遅れの習慣ではありません。人々の心が荒廃しかねない殺伐とした世相であればこそ、先祖から受継いだ伝統がより一層の意味を持ちます。神社はその伝統を守り伝える場所であり加えて常に新しい知見を提供する場でありたいと念願します。

本年の山王祭は、新しい参集殿で直会を行います。今後とも、日枝神社が皆様にとって、心を鎮めて祈りを新たにすると、また神様と氏子御崇敬の皆様とを結ぶ場として、新参集殿と共に末永く親しまれる事を願ってやみません。

結びに当り、皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申上げ、挨拶と致します。

令和七年 山王祭 行事日程

六月

七日(土) 十一時

末社八坂神社例祭

同 十六時半

奉納剣道大会奉告祭

八日(日) 十時

境内茶園並狭山新茶奉納奉告祭

同 正午・十四時半

稚児行列

十日(火) 十一時

表千家献茶式

十三日(金) 十一時

摂社祭

同 十八時

献灯祭

十四日(土) 十八時

献灯祭

十五日(日) 十一時

例祭

同 十八時

献灯祭

十六日(月) 十三時

山王嘉祥祭

十七日(火) 十時

裏千家献茶式

十三日(金)

山王音頭と民踊大会

十五日(日)

特別寄稿



参議院議員

山谷えり子

薫風緑樹をわたる季節となりました。

今年は戦後八十年、昭和百年の節目にあたります。

昭和の元号は四書五経の一つ「書経」の「百姓昭明にして、萬邦を協和す」から定められました。

二万二千六百六十日という最長の元号の時代を振り返りつつ、その節目の本年に、これまで活動が続けてきた「平和靖國議連」を各地の戦没者の慰霊顕彰や調査研究へと発展させる「平和を願う戦没者を慰霊顕彰する国会議員の会」へと再構築いたしました。

靖國神社、全国の護国神社、千鳥ヶ淵戦没者墓苑等の国内だけではなく、海外の激戦地（バラオ・ペリリュー島、ミャンマー・ヤンゴン日本人墓地、ソロモン諸島・ガダルカナル島等）の追悼施設への慰霊顕彰や老朽化に伴う修繕をはじめ、議員外交で海外訪問

の際には、各国の外国人戦没者追悼施設を訪ね世界平和を実現していくとするものです。

天皇皇后両陛下におかれては、先月四月に硫黄島をご訪問され戦没者を慰霊されました。先の大戦末期の昭和20年に日米両軍の間で激しい地上戦により二万九千人が犠牲とされた場所であり、上皇上皇后両陛下が31年前にご訪問されて以来となりました。

平成六年当時、皇后として硫黄島を訪問された上皇后は「戦場にいとし子捧げし ははそはの母の心をいかに思はむ」と御歌に詠まれました。

戦後八十年を経て日本の人口の九割近くが「戦後生まれ」となり、今日ではいかに戦争の記憶を将来に引き継いでいけるかも課題となっています。

若者の関心が薄れ、風化させないために国や民間団体も戦争体験の継承に力をいれています。厚生労働省は語り部の育成や戦争体験者の映像撮影をすすめるための予算を四倍の一億円に増額し支援体制を整えました。また、夏には戦後八十年をテーマとする若い世代を対象とした行事の充実も予定しています。

十年前の戦後七十年に安倍首相談話が発表されました。

当時、私は内閣の一員で発表前のある日、談話の草稿について感想を聞かせてほしいと総理に呼ばれました。

「百年以上前の世界には、西洋諸国を中心として国々の広大な植民地が広がっていました」の始まりの一文に、近現代史の時間軸を伸ばし広げ、歴史を俯瞰していく姿勢に衝撃を受けました。

談話は幅広い有識者により議論を重ねて練りに練られたものでした。

冒頭に続いて、敗戦にいたる苦難の日々が丁寧に記され、「尊い犠牲の上に現在の平和がある。これが、戦後日本 の原点」としたうえで、

「あの戦争には何ら関わりのない、私たちの子や孫、そしてその先の世代の子どもたちに、謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません。」と強調さ

れているくだりに胸がふるえました。

世界の平和と繁栄に貢献する決意とともに、次の世代には歴史を俯瞰して見つめながら、戦後の平和構築へのわが国の歩みに誇りをもって歩むよう未来志向の力が感じられたのです。

結びは、「終戦八十年、九十年、さらには百年に向けて、そのような日本を、国民の皆様と共に創り上げていく。その決意であります。」とあり、読み終えた時、人々の希望と自信を伝えるなど尊い壮大な談話だと感じ入りました。今も読み返すたび、日本と世界への愛と責任を感じます。

隣国などの反日勢力が歴史を武器化することには終止符を打つ。

そして、未来に向けて平和構築をしていく。日本は今、リーダーたる歩みが求められる局面にあります。

八十年間、我が国の強い意志を行動で示してきた私たち一人ひとりが誇り高く未来にむかって前進していくよう、節目である本年に全文を皆さんに一読いただきたいと願っております。

そして安全保障環境が厳しさを増す中だからこそ、日本の国がらに思いをいたし、戦没者追悼の場でご英霊の御霊に心からの感謝と哀悼の誠を捧げていきたいと思っています。

山王祭

—日本三大祭—

川越祭礼研究家

水戸 一斎

(監修 山瀬一男)

まつりの禁制

前号では、江戸時代の山王御祭礼を盛り上げた家守や若い者のことを取り上げました。今回はその反対に、まつりを取り締まる側の人々、つまり江戸幕府のことをご紹介します。

江戸時代を通じて、幕府はまつりに関する禁令をしばしば発しました。その印象が強すぎるせいか、幕府の政治は今もって誤った解釈をされているように思います。

たとえば、幕府は規制により民衆の抑圧を図ったと受け取られがちですが、民衆だけが規制の対象ではありませんでした。質素儉約の号令は、武士に対しても同じように向けられていたのです。古文獻を調べると、大名や旗本が厳しい規則に辟易しているさまが浮かび上がってきます。

幕府の政策が規制一辺倒というこ

ともありません。一一代將軍徳川家斉の時代には、まつりはむしろ奨励されましたし、賄賂の横行で悪名高い田沼時代も、まつりに対しては寛容でした。歴史を流れでとらえてみると、幕府は規制の強化と緩和を行きつ戻りつしていたように見えます。

幕府が一方的な倫理観を押しつけたわけでもありません。規制を必要とする幕府なりの理由がありました。ここから先は、江戸時代の三大改革を中心に、まつりの禁制の歴史を紐解いてみたいと思います。

享保の改革

一七世紀の終わりごろになると、幕府の財政は危機的状況に陥っていました。金銀の鋳山は掘りつくし、備蓄金も底をついていました。収入

といえば農民からの年貢だけといったありさまだったのです。

一方の支出は、商品経済の進展に伴い年々増加していました。世の中が落ち着くと生活がぜいたくになるのは当然で、そのため財政収支は悪化の一途をたどっていました。

そうしたなか、七代將軍徳川家継が八歳で亡くなりました。徳川宗家の血脈が途絶えてしまったのです。

幕閣たちは顔色を失いました。抜本的な改革が求められているときに、統率者がいなくなつてしまったからです。

強力な跡継ぎが必要という危機感のもと、真剣な後継者探しが行われました。その結果、御三家の一つ紀州家の徳川吉宗(画像1)に白羽の矢が立ちました。吉宗は若くして紀州家の当主となり、緊縮財政を敷いて紀州家の立て直しに成功していたのです。周囲の期待を一身に受け、吉宗は八代將軍に就任しました。吉宗を待ち受けていたのは、想像



【画像1】徳川吉宗像(徳川記念財団蔵)

以上の幕府の惨状でした。出入りの商人にも満足な支払いができず、家臣への俸禄も滞りがちでした。なりふり構つてはいられません。まずは冗費の節約が最優先でした。享保六年(一七二二)、吉宗は御祭礼の花形だった屋台を全面的に禁止し、まつりの参加人数を二分の一ないし三分の一に減らすようお願いを出しました。

当時の御祭礼は元禄時代の余風を受け活気に満ちており、各町の行列が日の出前から夕刻まで延々と続く

豪華絢爛な催しとなっていました。幕府は祭礼の警固を担っていましたので、山王社を出発した行列が城門にたどり着くまでの間は二〇人の与力と六〇人の同心が固め、城内では二人の徒頭が配下の徒士を率いて警固に当たっていました。彼らに支給する手当だけでも結構な額になりましたので、吉宗は祭礼の規模を縮小することで出勤人数を半分に減らしたのです。

翌享保七年、吉宗は諸大名に対し、参勤交代を軽減する代わりに石高一万石あたり一〇〇石を上納するよう依頼しました。「このままでは旗本を解雇しなければならなくなるので、恥を顧みず協力をお願いしたい」と力を込めて懇願しました。そこまですべては、諸大名も協力せざるを得ません。難局を乗り切るために必要な米が幕府に集まりました。

上納米のおかげで当面の危機を脱した吉宗は、本格的な年貢の増強に取りかかります。早速江戸日本橋に高札を建て、町人による新田開発を奨励しました。十数年後には八二の新田村ができあがり、幕府の総石高は四〇〇万石から四六〇万石に増えました。

ところがここで問題が起きました。収穫量が増加したことにより、

米の価格が下落したのです。

旗本や御家人の俸禄は米で支給されていたので、米が安くなると収入が目減りし、いくら量が増えても暮らしが豊かにならないという事態に陥りました。米以外の価格も同時に下がればよかったです、米だけが下がって諸物価はむしろ上がっていました。

「これは民衆がぜいたくになって、高価な商品を買うようになったからだ」そう考えた吉宗は、物価の抑制に乗り出しました。通貨の新規発行を止めたのです。

現代でも通貨の供給量を抑えると物価は下落しますが、このときも予想どおりの展開となりました。ただそれと同時に、通貨不足による猛烈な不況が引き起こされました。町なかに空き家や空き地が目立つようになり、店の半分が入れ替わった町もありました。

吉宗が繰り出したさまざまな政策により、幕府の収支は劇的に改善し、一〇〇万両を超える備蓄金を残すことができました。ただ、あくまでそれは幕府の目から見た成果でした。楽しみを奪われ、不況に苦しんだ民衆にとっては、改革は「改悪」にか映りませんでした。

寛政の改革

吉宗の改革はさすがにやりすぎとの批判も多く、寛延四年（一七五二）に吉宗が逝去すると、まつりはにぎやかさを取り戻しました。

もともと、屋台の禁止は元のままでしたので、町の人々は山車を屋台風に改造したり、舞台と楽屋を二つに分けた「屋台でないもの」を作ったりして、禁制の網をくぐろうとしました。

宝暦九年（一七五九）、幕府は改めてまつりを規制するお触れを出しました。屋台だけでなく、「屋台に紛らわしい山車」も禁止と釘を刺したのです。そうは言っても、神事だからにぎやかにすることは差し支えなく、舞台と楽屋を分けた造り物も認めるとの方針が同時に示されました。

町の人は二つの造り物を「踊り屋台」「底抜け屋台」と名づけて芸能を披露していました。幕府は意地でも屋台とは言わず、「踊り台」「日覆

と呼んでいました。踊り台はどこから見ても屋台でしたので、幕府がそれを認めたということは実質的に屋台が解禁されたものと人々は受け取りました。

世間が浮かれ気分であったこの時代、「世の中はカネ次第」という風潮が高まりました。幕府も総力を挙げて収益の向上に熱を入れたのです。その代表格が、明和四年（一七七二）に老中となった田沼意次（画像2）です。意次はお金のあるところから税金を取ろうと考え、吉宗が物価統制のため組織した商工業者の同業組合（「株仲間」といいます）を積極的に活用し、運上金や



【画像2】田沼意次侯像（牧野原市史料館所蔵）

冥加金^{みようがきん}といった営業税を課しました。

現代から見ればあたりまえとも言えるこの施策により、明和七年（一七七〇）には幕府の備蓄金が三〇〇万両を超えました。だが、この方法は結局うまくいきませんでした。

幕府は株仲間への加入を一部の特権商人にしか認めなかったため、加入の道を閉ざされた大多数の商人は自由に商売ができず、不平不満がくすぶっていたからです。株仲間へ加入するにも多額の賄賂が要求され、金権政治に対する憤りがたまっていました。

天明七年（一七八七）、前年に起きた大水害により、江戸の町は深刻な米不足に陥りました。幕府が繰り出す小手先の対策は一向に効果が現われず、米の価格はうなぎのぼりとなりました。

五月に入ると、江戸の各所で大規模な打ちこわしが起きました。標的とされたのは米問屋だけでなく、米で一儲け^{もちけ}しようとする買占めを行った商人たちも数多く含まれていました。暴徒たちはそうした店を突き止め、狙いを定めて襲撃したのです。彼らは俵の米を路上にまき散らし、山のように積み上げました。それでも彼

らは盗むことはしませんでした。暴利をむさぼる商人に、痛烈な社会的制裁を加えたのです。

幕府はあわてて困窮者に救済金を支給し、安値で米を放出しました。さらにこの騒ぎの責任を取らせる形で意次の一派を更迭しました。近代的な税制への移行は、その好機を逃してしまったのです。

意次の後任には堅実な人物がふさわしいとされ、奥州白河藩主の松平定信^{（画像3）}が適任者として選ばれました。定信は東北地方を飢饉が襲った際に一人の餓死者も出さなかったことで注目されていたのです。

老中に就任した定信は、吉宗の行った政治を忘れたことが今回の暴動を招いたと考え、すべてのことを吉宗の時代に戻すとの方針を立てました。打ちこわし後の幕府の備蓄金は八〇万両まで急減していたため、質素儉約を叫ばざるを得ないという事情もありました。

何よりもまず、町なかの治安対策が急務でした。打ちこわしが二度と起こらないよう、米不足を回避する施策が求められたのです。

寛政三年（一七九一）、定信は町人たちに町の活動費（町入用^{ちようによう}）と

の一〇分の七を米の備蓄のために積み立てることを命じました。これを「七分積金^{しちふつみきん}」と呼びますが、町入用の中では祭礼費が一番目立ちましたので、定信は節約の具体策として、屋台や仮装行列といった祭礼の「付祭^{つけまつり}」を三組に制限しました。

在任期間中、定信はさまざまな政策を断行しました。その効果が表れ、

幕府の備蓄金は少しずつ増えていき、果たしました。天保年間に飢饉が起きたとき、江戸に不穏な動きが見られなかったのは七分積金のおかげと言われています。ただ、あまりに細かすぎる規定で人々を拘束したため、定信の改革はすこぶる不評でし

た。

寛政五年（一七九三）、定信は突然老中を罷免させられました。確かな理由は伝わっていませんが、将軍家斉のみならず幕閣や民衆からも支持を得られず、孤立状態に陥っていたとは言えそうです。

天保の改革

定信に続く時代は「文化文政期」と呼ばれ、将軍家斉が権力を振るった時代とされています。

家斉は四〇人の側室、五五人の子どもがいたことからわかるように、享樂的で場当たりの政治に終始しました。将軍職を退いた後も政権の座にとどまり、政治を



【画像3】松平定信像（福島県立博物館蔵）

意のままに操りました。

まつりだけをとってみれば、文化文政期は幸せな時代でした。將軍の後ろ盾もあって御祭礼は最盛期を迎え、付祭は二〇組を数えました。

だがその一方で、幕府の財政はどんどん蝕^{むしば}まれていきました。定信によって一〇〇万両台まで回復していた備蓄金は、家斉の浪費により文化一三年（一八一六）には六五万両まで落ち込みました。



【画像4】水野忠邦公御肖像（東京都立大学図書館本館所蔵 水野家文書 F1-9）

それでも幕府財政が破たんしなかったのは、貨幣の質を落とした改鑄を繰り返したからです。文化元年（一八一八）から天保三年（一八三二）までの間に八回の改鑄を行い、総額およそ一八五万両の差益を生んだと言われています。

天保三年から同九年にかけて、東北地方を中心に飢饉が猛威を振るいました。二〇万人以上が亡くなり、多くの農民が耕作を放棄し故郷を離れました。このような重

大事が起きて、幕府は有効な手立てを講じることができませんでした。

天保八年（一八三七）、元大坂町奉行所与力の大塩平八郎が「世直し」を掲げて挙兵しました。この反乱は事前に計画が漏れたこともあり、わずか半日で鎮圧されましたが、幕臣であった者が公然と反旗を翻したことに幕府内では衝撃が走りしました。

天保二年（一八四二）に家斉が亡くなり、老中水野忠邦（画像4）

が改革の陣頭に立ちました。忠邦は享保・寛政の精神に立ち返ることを宣言し、手始めとして祭礼の緊縮令を公布しました。付祭も定信と同じ三組に制限されました。

忠邦の政治は、江戸の町の人々を締め付けることだけを目的としていました。飢饉がもたらした田畑の荒廃により、多くの農民が江戸に流入していました。忠邦は都市から魅力を奪うことで、農民たちを農村へ返そうとしたのです。

夕涼みの花火や縁台の将棋も禁じられました。害毒をまき散らす歌舞伎役者は町なかで編み笠をかぶるよう強制されました。「それは江戸が衰退してしまいます」と言われても、「そうなくても構わない」と強気の姿勢を崩しませんでした。

忠邦は物価統制にも力を入れました。物価上昇の原因が価格を操作している株仲間にあるとし、その解散を命じました。それでも物価は下がらず、かえって流通の混乱を招きました。

天保一三年（一八四二）、アヘン戦争の情報が幕府にもたらされました。戦争に敗けた中国が英国に多額の賠償金を払わされたと聞いた忠邦は、防衛力を強化するため

江戸の一〇里（約四〇キロメートル）四方を幕府直轄領にすると宣言しました。

あまりに一方的な命令であったため、幕閣たちからも猛反発を受けました。事態収拾のため將軍家慶自らこの命令を撤回することになり、忠邦は老中を罷免させられました。

その日の夜、千人を超える民衆が忠邦の役宅を取り囲み、四方から石を投げつけました。幕府の役人は騒ぎが収まるまで見て見ぬふりをしました。民意を無視した当然の報いと言えるかもしれません。

禁制の意義

禁制は幕府のお家の事情、それも主に財政のひっ迫が原因となっていたことが、おわかりいただけたかと思いますが、時の為政者は一生懸命考えて幕府を守ろうとしたのでしようが、それに付き合わされた民衆はいい迷惑であったと、思わずにはいられません。

【敬称は省略させていただきます】

奉 祝 山 王 祭

順 不 同 敬 称 略

山の茶屋 遠藤恒夫		山王熱供給(株) 代表取締役 長 津曲荒太		永田町・霞ヶ関 平河町		マネックスグループ(株) 会 長 松本大		八重洲ゴルフライフ 八重洲ライフ(株) 代表取締役 長 松本信義		(株)ぬ利彦 会 長 中澤彦七	
(有)ナリタ美容室 代表取締役 成田弘子		弁護士法人一番町総合法律事務所 代表弁護士 神崎浩昭		(株)ジョー・コーポレーション 代表取締役 堀切健司		(株)ニュー・オータニ 代表取締役 長 清水肇		(株)アーバネットコーポレーション 代表取締役 長 服部信治		(株)永田町 天竹	
(株)泉屋東京店 代表取締役 泉由紀子		麴町・紀尾井町		(株)伊勢半ホールディングス 代表取締役 長 澤田晴子		(株)靖雅堂 夏目美術店 代表取締役 夏目進		(株)アルファビデオ 代表取締役 青山朋孝		日枝四葉会 会 長 成田弘子	
(資)清水隆商店 代表社員 清水昭治		表千家 不審菴 家 元 千宗左		(株)富士植木 代表取締役 成家岳		(株)朝日写真ニュース社 代表取締役 長 阪田裕一		(株)ぶんか社 代表取締役 今晴美		番町・九段・四谷	
(株)帝国ホテル 代表取締役 長 風間淳		泉吉(株) 代表取締役 岸本昌子		(株)キョウエイアドインターナショナル 代表取締役 長 廣瀬勝巳		東京技工(株) 代表取締役 長 林光男		日本橋ゆかり 野永喜一郎		二菱地所(株) 執行役社長 中島篤	
木村實業(株) 代表取締役 木村平右衛門		中西瀝青ホールディングス(株) 代表取締役 森口友美子		金子架設工業(株) 代表取締役 青木茂		小宮山印刷(株) 代表取締役 長 小宮山貴史		八丁堀 茅場町・兜町		北見不動産(有) 代表取締役 長 北見芳夫 代表取締役 長 北見千穂	
川崎定徳(株) 代表取締役 川崎眞次郎		日本橋吉野鮓本店 吉野正敏		(株)栄太樓總本舗 代表取締役 長 細田将己		東京建物(株) 代表取締役 社長執行役員 小澤克人		田中貴金属グループ 代表取締役 社長執行役員 田中浩一朗		いちよし証券(株) 執行役社長 玉田弘文	

奉祝山王祭

順不同敬称略

京	橋													
(株)大澤ローヤル 代表取締役 大澤 忠政	銀座吉田(株) 代表取締役 吉田 民雄	(株)三越伊勢丹 執行役員 三越銀座店長 (株)三越伊勢丹	富士産業(株) 代表取締役 中村 仁彦	崇敬者(氏子外)		(株)ホツタ 取締役社長 堀田 峰明	フットー商事(株) 代表取締役 野 玉善一	きねや足袋(株) 代表取締役 中澤 貴之	(株)錦屋マリエマリエ 取締役社長 勝田久美子	(株)フエム 代表取締役 藤田 誠	(株)ミロク情報サービス 代表取締役 長 是枝 周樹	鈴木徽章工芸(株) 代表取締役 長 鈴木 敬二	(株)銀座木村家 代表取締役 木村 光伯	
(株)糟谷 相談役 糟谷 孝男	(株)井筒装束店 代表取締役 佐 織 鉄郎	(株)高田装束店 代表取締役 加藤 充則	(株)大槻装束店 代表取締役 大槻 奈津子	佐 竹 昭 二		裏千家 今日庵 千 玄室 宗室	(株)フォーシーズンズ 代表取締役 会長兼CEO 浅野 幸子	安全自動車(株) 代表取締役 中谷 宗平	(株)丸井スズキ 代表取締役 鈴木 貴博	廣田特許事務所 代 表 廣田 雅紀	有楽商事(株) 代表取締役 平沼 顕司	佐藤産業(株) 会 長 佐藤 太美雄	(株)信英堂 代表取締役 桜井 俊一	
朝日総業(株) 代表取締役 池本 なぎさ		令和七年正月献酒醸造元芳名(順不同・敬称略)												(株)CMC 代表取締役 高橋 悦郎
酒は、これを神々に献り、その撒下をいただく事によって、うつうつとした気持ち が晴れやかになる百薬の長です。 当日枝神社の御祭神大山咋神は、古来、酒を司らせ給う東都の酒神と厚く信仰せられるところ であります。														

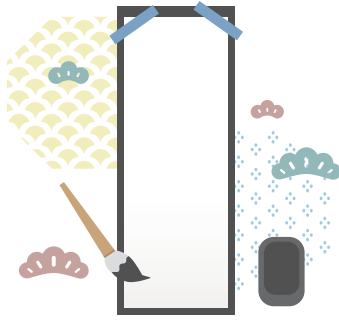
第六十一回

奉納書初展

令和七年一月五日(日)午後
二時から奉納書初展感謝奉告
祭を執り行いました。

今年の宮司賞は九段中等
教育学校二年の大原結月さん、
氏子崇敬会長賞には目白研心
中学校一年柳井優莉さんが受
賞しました。祭典の後に受賞
者へ感謝状と記念品の贈呈が
行われました。

書初展奉納作品は一月十五
日(水)まで境内に展示しまし
た。多くの参拝者が足を止め
て奉納作品を鑑賞しました。



第五十九回 山王奉書会

表彰者芳名(順不同)

宮司賞

九段中等教育学校

大原 結月 殿

氏子崇敬会長賞

目白研心中学校

柳井 優莉 殿

秀作

番町小学校

杉原 佳歩 殿

お茶の水小学校

伊藤 にか 殿

神田一橋中学校

須貝 透子 殿

麹町中学校

三原 彩音 殿

大妻中学校

高山 野々子 殿

和洋九段女子中学校

榎平 承美 殿

泰明小学校

杉浦 唯名 殿

九段中等教育学校

小柴 千知 殿

宮司賞を頂いて

九段中等教育学校二年 大原 結月

この度は大変素晴らしい賞をいただき、あ
りがとうございます。奉納書初展は小学6年
生の時に出品し秀作をいただくことができま
したが、まさか憧れの宮司賞をいただく事は
想像もできず、嬉しさと興奮でいっぱいです。
6月、出品に向けて「百花繚乱」を選び書
き始めました。華やかな様子を表すこの言葉
の音の響きや字の形の美しさに魅了されたか
らです。今後の自分にこの言葉の意味を当て
はめ、様々な事に挑戦し自分らしく輝きたい、
そんな書き方をしたいと思いました。

仕上げの11月まで何度も書き直し、試行錯誤
し、その度に一画一画に自分の最初の思いを込
めました。
日枝神社の境内で、宮司賞としての自分の
作品を見られたのは私の誇りです。この受賞
をきっかけにもっと上達したいと強く思いま
した。そして感謝奉告祭では「百花繚乱」の
ように様々な可能性を咲かせられるように努
力したいと誓いました。最後に審査をしてく
ださった皆様に感謝申し上げます、本当にあ
りがとうございました。

氏子崇敬会長賞をいただいて

目白研心中学校一年 柳井 優莉

この度は氏子崇敬会長賞を頂くことができ、
とても嬉しく思います。

私は小学一年生の時から書道教室に通い始
めました。初めて筆を使つて書いた字をたく
さんほめてもらったことが嬉しく、もつとた
くさんの字を書いてみたいと思うようになり
ここまで続けてきました。

思ったように書けない時もありますが、納
得いくまで練習を重ねる時間も、筆を持つて
書くことも大好きです。

「森羅万象」とは色々な意味があります。
その中でも「宇宙全体の全ての存在」とい

百花繚乱
九段中等二年大原 結月

森羅万象
目白研心中学校一年 柳井 優莉

う意味を聞いて今回選びました。

世界には、食べ物がなく飢えて亡くなる人
がいたり、地球温暖化によって亡くなる動物、
自然災害によって被災し住む場所を無くした
人もいます。

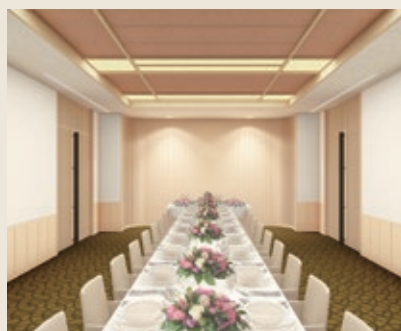
現実を受け入れて、これから先全ての人や
動物たちが今よりも幸せになつてほしいとい
う願いを込めて書きました。

作品を完成させるために先生にはたくさん
指導していただきました。家族や友人にも感
謝して、これからも賞をとれるようにがんばつ
ていきたいです。ありがとうございました。

参集殿竣工祭

令和七年五月七日（水）に参集殿の竣工祭を執り行いました。令和四年七月の着工から約三年を経て竣工に至りました。

参集殿では、二階の「末広の間」（百二十名様迄）地下一階の「葵の間」（二十名様迄）に於いて結婚式披露宴や各種御宴席を行います。また、地下一階にはカフェレストラン「山王茶寮」を併設。ご参拝の折のお食事や御休憩にお立ち寄りください。



葵の間



末広の間



山王茶寮

寄稿

山王祭の山車人形 ―分類と日枝神社の人形―

武蔵大学教授 福原敏男

江戸城内や江戸市中の氏地を巡行した天下祭(隔年の山王祭と神田祭)の花形であった山車人形は、その多くが明治以降失われてしまった。

山王祭には四十五もの山車組が編成され、各組(町連合が多い)が一本ないし数本の山車を出し、毎回

五十数本が牛や人に曳かれた。

天下祭山車の運行順はほぼ決まっており、一番大伝馬町の諫鼓鶏と二番南伝馬町の猿は毎年「両祭の定番」であった。三番組の山車が両祭独自の先頭であり、山王祭の三番組は町数、人口や経済規模の点より以

下の六組より構成され、六本の山車が出された。

巡行順に①麴町一―三丁目②同四―六丁目③同七―十丁目④同十一―十三丁目⑤平河町一・二丁目⑥平河町三丁目・山元(本)町であり、山王権現の氏子町には稀有な江戸城の西に位置し、半蔵門を起点とする甲州街道の両側に位置していた。

文政七年(一八二四)六月十五日「山王御祭礼番付」(江戸馬喰町二丁目の森屋治兵衛が板元)により、山車の上部に飾られた人形や造り物の主題を四つに分類する。

神仏・精霊…一番鶏諫鼓、

二番猿、三番組の①男猿(女猿と隔年)・③日本武尊・④猿の曲芸(雲舞)・⑥猿田彦、七番弁天、八番春日龍神、十番加茂明神、四十五番狸々(猿は山王権現の使いとされる)

歴史・物語上の人物…九番静御前、十一番一来法師、十二番応神天皇を抱く武内宿祢、二十四番神功皇后、二十六番

浦島太郎、二十七番源頼光・浦嶋太郎、二十八番太公望(呂尚)、三十一番佐々木四郎、三十二番神功皇后、三十四番源頼朝、三十七番源頼義、四十一番武内宿祢、四十四番僧正坊と牛若丸(当時、実在の「歴史上の人物」とされた主題もある)

縁起物・町の象徴など…四番水車、十三―十五番石台に牡丹、十六・十八―二十二・三十三・四十二番月に薄、二十三番分銅・槌、二十八番幣に大鋸、二十九番茶釜茶笥茶杓、三十五番蓬萊、三十六番斧に鎌、三十八番宝船、四十三番幣に弓矢(月に薄)「石台に牡丹」は経費が少なくて済むとされた

行為(人が関わる)…三番組の②馬乗・⑤太鼓打(からくり)、六番松に羽衣、十七番狐船、二十五番羽衣、二十六番棟上、二十九番茶臼挽、三十番狐船、四十番流鏑馬

静の舞、一来法師、春日龍神や加茂明神はからくり人形ではないが、「芸能(能)の人形」という観点からも捉えられる。全体的には、中国趣味の主題は少なかった。

江戸時代には神功皇后の三韓遠征の伝承や安産・子育て祈願を背景と



写真1 神功皇后人形



写真2 後の応神天皇を抱く武内宿祢人形

図1・2は④麴町十一、十三丁目組が出しており、写真1・2は④が出したものである。

さて、日枝神社にはもう一体写真3の土佐坊人形(武将土佐昌俊)が所蔵される。同人形は万延元年(一八六〇)と明治十六年(一八八三)の祭礼番付に、「馬乗小僧人形」、「土佐坊人形」と載る。三番組の②「麴町五丁目」が単独で制作・保管し、昭和期に日枝神社へ寄贈したという。

文治元年(一一八五)、源頼朝と弟義経の対立が激しくなる
と、鎌倉で義経誅伐の群議が行われ、頼朝家臣の土佐坊昌俊は、進んで刺客の役を引き受けて上洛した。

同年十月、六十余騎を率いて京都六条室町亭に義経を急襲するも反撃にあい、鞍馬山の奥に逃れた。しかし僧徒に捕らえられ義経に引き渡されて、同月、六条河原で斬首された。

その前身については伝説が多く、平治の乱で敗れ、東国へ落ち延びようとしていた源義朝の郎等の一人洪

谷金王丸ともいわれている。金王丸は、義朝が尾張で暗殺されたことを常盤御前に伝え、自分は出家して土佐坊と名乗り、義朝の菩提を弔つたと伝えられている。

昌俊が山王祭に選ばれたのは現渋谷区の金王八幡宮にちなむ。同宮は金王丸の祖父河崎基家が創建した神社とされる。同宮は当初、渋谷八幡宮と呼ばれていたそうだが、金王丸の名声によって金王八幡宮と改められたのだという。

同宮の金王様は、源頼朝が父義朝に仕えた金王丸を偲んで、鎌倉から移植したという伝説が伝えられる。

日枝神社蔵の山車人形は組内の個別町が制作・保管していたので、各組には複数の人形が存在し、祭礼に参加する人形を代えていたのである。

山車の人形や造り物は、山車組や個別町が江戸の専門職人に発注して制作し、経費は町費(町入用)から支出されたが、町内の大店などが支払うこともあった。

多くの山車は幕末まで、一本柱が二輪台車の中心から先端の人形まで貫通する躯体であった。人形台座下の笠形と、長柄の一本柱から成る傘

して、後の応神天皇を抱く武内宿祢と合わせて人気を博し、冒頭の文政七年には十二番・二十四番・三十二番・四十一番に出されていた。

写真1神功皇后と同2武内宿祢の人形は日枝神社が所蔵し、宝物館に展示されているが、どの山車組が出したのだろうか。

同社伝によると、写真1・2は文政五年(一八二二)六月の祭礼に合わせて制作された。作者は「出目元祖三光入道政満」の「三十二代後胤、

出目大学藤原泰満、人形師武蔵歳安」とされる。写真1・2は、昭和四十年九月に麴町五丁目町会より奉納されたという。

江戸時代の「町・丁目」と近代以降の「町会」とは異なっている場合がある。江戸時代の祭礼番付によると、三番組の②麴町四、六丁目組は右の人形を出していない。

一方次頁図1・2の人形は、三番組の山車人形を描く「山王祭山車人形画譜(個人蔵)」に収められている。



図 2



図 1

鉾が台車に立てられ、人形や造り物が笠上に飾られた（笠下の円筒形外側は幕）。
山王祭の山車は高低差の大きい広域の氏地を曳き廻され、時に急がされることもあったため、台車部分は数回で傷み、人形も経年劣化した。
右の場合や、氏子町が景気のよい年などに人形が新作され、従来とは異なる人形が発注されることもあったが、定番が踏襲されることが多かった。
江戸には、他の都市のような山車を収蔵する蔵や会所は存在せず、解



写真 3 土佐坊人形

体された部品が、山車組の氏子宅などへ分収・保管されていたようである。
江戸時代に制作された山車人形は膨大な数にのぼったが、帝都東京の道路や電線などの整備により、明治二十年代には東京中心部の祭礼から消えてしまった。また家屋の変化等の影響で部品の分収ができなくなり、人形の多くが地方に流出したり、戦争や災害によって失われていった。
そして人びとの興味は人形よりも町神輿に移っていき、東京中心部の山車人形の存在は、半世紀ほど前までほとんど忘れられていたのである。

予 告

中秋管絃祭（第五十五回）

十月六日（月）午後六時開演予定

中秋のひととき、日枝神社で行われる古式
ゆかしい伝統芸能「雅楽」を心ゆくまでご
鑑賞下さい。

管 絃 太食調音取 還城樂 長慶子

神樂舞 剣の舞 悠久の舞 日枝の舞

舞 樂 小野雅樂会奉仕



御神米づくり 御田植祭



令和七年五月三日（金）に遠藤治雄奉賛青年会幹事長（耕作長）を始め
とした総勢十九名で千葉県香取市の御神田地に出向し、御田植祭を
執り行いました。

当日は青空のもと祭典を執行し、その後に手作業で田植奉仕を行いました。
抜穂祭（稲刈り）は八月下旬を予定しています。

山王祭事暦

箸感謝祭

八月四日（月）十時半

山王祖霊祭

九月二十三日（火）十一時

新嘗祭

十一月二十三日（日）十一時

山王台通信

神社本庁辞令

主典 セレスト ハルト
日枝神社権禰宜に任ずる
令和七年四月一日付

日枝神社権禰宜に任ずる
奥津 和
令和七年五月十五日付

新入職員紹介

巫女 時田 愛巳

巫女 高間 百莉央

巫女 藤村 さくら

巫女 佐藤 朱莉

実習生 古積 文哉

技師 尾崎 和幸

令和七年四月一日付

令和七年五月一日付

令和七年六月一日付

就 任

九段地区大総代

夏目 進殿

株式会社靖雅堂夏目美術店

令和七年四月一日付

（通巻百四十六号）

発行 令和七年六月一日
編集 日枝神社社務所

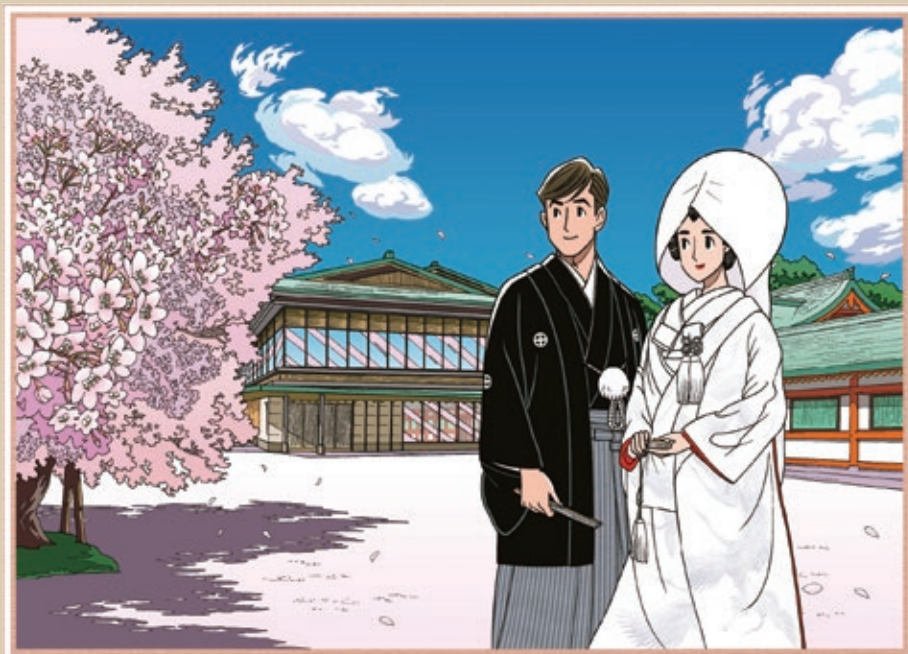
東京都千代田区永田町二丁目十番五号

（郵便番号 一〇〇一〇一四）

TEL 〇三―三五八一―二四七二（代表）

FAX 〇三―三五八一―二〇七七

<http://www.hiejinja.net/>



©わたせせいぞろ／APPLE FARM INC.

婚礼お下見
随時受付中

9:00 ~ 16:00

詳しくは
お問い合わせ下さい。



日枝神社
結婚式場

日枝 あかさか

東京都千代田区永田町2丁目10番5号
TEL.03-3502-2205 FAX.03-3502-8948
<http://www.hieakasaka.net/>

令和7年

日枝神社 七五三プラン 受付

6月20日
より

日枝あかさかでは御祈祷・お祝い着レンタル・着付け&ヘアセット・スタジオでの写真撮影がセットになったお得なプランをご用意しております。

詳細はQRコードよりご確認ください▶



受付・お問い合わせは

日枝 あかさか

03-3502-2205